

■中国：新しい原子力中長期開発計画を作成・検討中、ウラン備蓄も視野に

2009年3月、国家エネルギー局電力部の曹述棟副部長は、中長期的視野の新たな原子力開発計画を作成中であることを明らかにした。作成作業は2008年に開始され、すでにドラフトは完成しており、関係各所の検討を経た後、近日中に国务院へ提出される見通しである。曹副部長が語った現段階での暫定的な内容として、2020年の原子力開発目標水準が、総電源容量の5%、総発電電力量の8%と設定されている。現時点で最新の公式開発目標は、2005年作成・2006年公布の「原子力発電中長期発展計画（2005～2020年）」において示されている「2020年時点で4,496.8万kW」という数値である。しかし、新計画が上記の通りに承認されれば、2020年時点の原子力発電設備容量は約7,500万kW程度と、従来目標を大きく上回る水準になると予想されている。また、曹副部長は原子力開発に向けた攪乱要因として、設備製造・供給能力と、ウラン燃料の安定供給供給を挙げている。前者については、今後、大量の着工が控えているにもかかわらず、中国内に設備メーカーが少なく、設備の供給能力が開発のボトルネックとなる可能性が指摘されているほか、後者については、それほど深刻ではないものの、国家および企業単位での備蓄、また海外におけるウラン開発を奨励するべきだと述べられている。